(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3203775号
(U3203775)
(45)発行日　平成28年4月14日(2016.4.14)　(24)登録日　平成28年3月23日(2016.3.23)

(51)Int.Cl.　　F I
A41B 9/12 (2006.01)　　A41B 9/12　B
A41D 13/05 (2006.01)　　A41D 13/05　125

評価書の請求 未請求　請求項の数 2　OL　(全 6 頁)

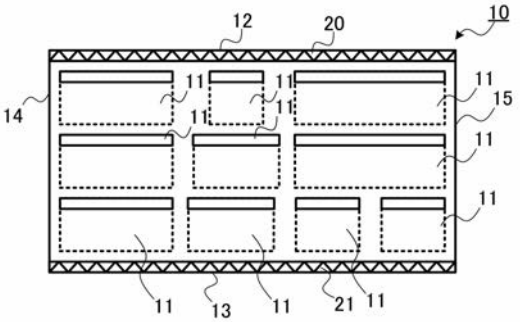
(21)出願番号　実願2016-529(U2016-529)
(22)出願日　平成28年2月4日(2016.2.4)

（特許庁注：以下のものは登録商標）
1．アイスノン

(73)実用新案権者　513077911
田村　和俊
宮崎県宮崎市橘通西２丁目５－１９
(74)代理人　100177220
弁理士　小木　智彦
(72)考案者　田村　和俊
宮崎県宮崎市橘通西２丁目５－１９

(54)【考案の名称】腹巻

(57)【要約】　（修正有）
【課題】使用者の利便性を向上させた腹巻を提供する。
【解決手段】経糸及び緯糸に織り込まれた帯状の織物１０が、その長手方向又は短手方向の両端部を縫い合わせて筒状に形成された腹巻は、筒状の外側の表面上に、前後左右に亘って複数のポケット１１を備える。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
経糸及び緯糸により織り込まれた帯状の織物が、その長手方向又は短手方向の両端部を縫い合わせて筒状に形成された腹巻であって、
前記筒状の外側の表面上に、前後左右に亘って複数のポケットを備えることを特徴とする腹巻。
【請求項２】
前記織物の正面側と背面側とをつなぐ肩紐を備えることを特徴とする請求項１に記載の腹巻。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、経糸及び緯糸により織り込まれた帯状の織物が、その長手方向又は短手方向の両端部を縫い合わせて筒状に形成された腹巻に関する。
【背景技術】
【０００２】
腹巻は、専ら冬季に着用され、保温性を重視したものとなっており、外側表面にカイロ等の暖房器具を収納するためのポケットを備えるものが存在する。
【０００３】
例えば、特許文献１では、腹巻の外側表面の特定箇所に、カイロを収納するポケットを設け、健康増進に寄与する構成が開示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】実用新案登録３１６７４１９号
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、特許文献１に記載の構成は、東洋医学に基づいた「人体のツボ」に接する場所にポケットを設けている。そのため、ポケットの位置に関しては、変更が困難であった。加えて、ポケットにカイロ以外の物品、例えば、小冊子、財布、金銭、パスポート等の物品を収納する場合、固定されたポケット位置では、使用者は、自身が使い勝手の良い場所に収納することが困難であるため、使用者にとって必ずしも利便性が高いとは言えなかった。
【０００６】
本考案は、このような課題に鑑み、使用者の利便性を向上させた腹巻を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本考案では、以下のような解決手段を提供する。
【０００８】
第１の特徴に係る考案は、経糸及び緯糸により織り込まれた帯状の織物が、その長手方向又は短手方向の両端部を縫い合わせて筒状に形成された腹巻であって、
前記筒状の外側の表面上に、前後左右に亘って複数のポケットを備えることを特徴とする腹巻を提供する。
【０００９】
第１の特徴に係る考案によれば、経糸及び緯糸により織り込まれた帯状の織物が、その長手方向又は短手方向の両端部を縫い合わせて筒状に形成された腹巻は、前記筒状の外側の表面上に、前後左右に亘って複数のポケットを備える。
【００１０】

第２の特徴に係る考案は、前記織物の正面側と背面側とをつなぐ肩紐を備えることを特徴とする第１の特徴に係る考案である腹巻を提供する。

【００１１】

第２の特徴に係る考案によれば、第１の特徴に係る考案は、前記織物の正面側と背面側とをつなぐ肩紐を備える。

【考案の効果】

【００１２】

本考案によれば、使用者の利便性を向上させた腹巻を提供することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【００１３】

【図１】図１は、織物１０の外観図である。

【図２】図２は、腹巻１の正面側を示す外観斜視図である。

【図３】図３は、腹巻１の背面側を示す外観斜視図である。

【図４】図４は、腹巻１の変形例を示す外観斜視図である。

【考案を実施するための形態】

【００１４】

以下、本考案を実施するための最良の形態について、図を参照しながら説明する。なお、これらはあくまでも例であって、本考案の技術的範囲はこれに限られるものではない。

【００１５】

図１は、本考案の好適な実施形態である腹巻１を形成する織物１０を示す図である。織物１０は、経糸及び緯糸により織り込まれた帯状の形態である。経糸及び緯糸の素材は、例えば、綿、絹、ウール、カシミヤ、アクリルである。織物１０の長手方向及び短手方向の長さは、一般的な腹巻と略同様である。腹巻１は、織物１０の長手方向又は短手方向の両端部を縫い合わせて筒状に形成される。なお、経糸及び緯糸は、他の素材であっても良いし、複数の素材を組み合わせても良い。

【００１６】

図１において、織物１０は、表面上に前後左右に亘って複数のポケット１１を有する。ここで、織物１０の表面は、使用者の肌が直接接触する面が、織物１０の内側の表面であり、使用者の肌が直接接触しない面が、織物１０の外側の表面であって、複数のポケット１１は、外側の表面上に備えられる。ここで、ポケット１１とは、織物１０の外側の表面に布をあてがえて、縫い付けられたポケットではなく、織物１０の内側の表面に布をあてがえて、縫い付けられたポケットのことである。

【００１７】

複数のポケット１１は、織物１０の長手方向の一方の辺１２に略平行に開口部が設けられている。開口部は、織物１０の長手方向の一方の辺１２に向かって設けられている。ポケット１１には、例えば、小冊子、メモ帳、財布、金銭、パスポート等の書籍や貴重品が収納されてよいし、カイロなど肌を温める発熱体（暖房器具を含む）が収納されてもよいし、吸熱性シート、冷凍材、アイスノン、氷、小型の氷枕等の冷感体（冷感シート等を含む）が収納されてよい。ポケット１１の大きさは、例えば、Ａ５、Ａ６、Ｂ６、新書版の大きさである。また、ポケット１１の位置は、織物１０の短手方向の一方の辺１４から他方の辺１５の方向に向かって設けられている。なお、複数のポケット１１の数、大きさ、及び位置は、適宜変更可能である。

【００１８】

このようにポケット１１を配置することにより、腹巻１は、上述した書籍や貴重品等の物品を、身体に密着して収納することができる。したがって、使用者は、収納された物品例えば、パスポートや金銭、財布等の貴重品を、常時に肌で接触を感じながら、安心して、保管しておくことが可能となる。さらに、ポケット１１を織物１０の内側の表面に布をあてがえて、縫い付けているので、外側の表面に布をあてがえて縫い付けているよりも、収納された物品をより、直接的に肌で感じることができる。

【００１９】

また、織物１０は、長手方向の一方の辺１２には、ゴム紐２０が縫い付けられており、他方の辺１３にゴム紐２１が縫い付けられている。長手方向の一方の辺１２に縫い付けられたゴム紐２０は、引張強度が通常のゴム紐よりも強い素材を使用することが望ましい。また、ゴム紐２０は、ゴム紐２１よりも、引張強度が強い素材であることで、ポケット１１に物体を挿入して、重くなっても腹巻１がずり落ちることを防止できる。ゴム紐２１は、一般的なゴム紐と同程度の引張強度の素材を使用している。なお、ゴム紐２０の引張強度は、通常のゴム紐と同程度の引張強度であっても良い。また、ゴム紐２１は、ゴム紐２０と同様に、引張強度が一般のゴム紐よりも強い強度であっても良い。

【００２０】

このようにすることにより、腹巻１は、使用者が着用した際、例えば、複数の小冊子や貴重品等をポケットに収納した場合であっても、通常のゴム紐の場合と比較して、ゴム紐２０により身体により密着することになるため、使用者が着用時に、腹巻１がずり落ちたりすることを防止することが可能となる。

【００２１】

図２は、本考案の好適な実施形態である腹巻１の正面側を示す外観斜視図である。また、図３は、本考案の好適な実施形態である腹巻１の背面側を示す外観斜視図である。

【００２２】

腹巻１は、織物１０の長手方向の両端部である短手方向の一方の辺１４と他方の辺１５を縫い合わせて筒状に形成される。本実施形態において、腹巻１は、織物１０の長手方向の一方の辺１２が、使用者のみぞおち付近に位置する。

【００２３】

なお、腹巻１は、織物１０の長手方向の他方の辺１３が、使用者のみぞおち付近に位置していても良い。この場合、ポケット１１の開口部を、織物１０の長手方向の他方の辺１３に向かって設ければ良い。加えて、上述したゴム紐２０を、織物１０の長手方向の他方の辺１３に縫い付け、ゴム紐２１を、織物１０の長手方向の一方の辺１２に縫い付ければ良い。

【００２４】

また、腹巻１は、織物１０の短手方向の両端部である長手方向の一方の辺１２と他方の辺１３とを縫い合わせて筒状に形成されていても良い。この場合、ポケット１１の開口部を、織物１０の短手方向の一方の辺又は他方の辺に略平行に形成すれば良い。加えて、上述したゴム紐２０，２１を、織物１０の短手方向の一方の辺１４と、他方の辺１５とに縫い付ければ良い。ゴム紐２０は、使用者のみぞおち付近に位置することになる短手方向の一方の辺１４又は他方の辺１５の何れか一方、又は双方に縫い付ければ良い。

【００２５】

図４は、本考案の変形である腹巻１を示す外観斜視図である。図４において、腹巻１は、二つの肩紐３０が内側に縫い付けられている。肩紐３０は、織物１０の正面側と背面側とをつなぐ形状である。肩紐３０は、使用者の肩にかけることを可能とする。肩紐３０の素材は、上述した織物１０の素材と同様である。また、肩紐３０は、使用者が肩にかけるために必要な幅と厚みを有していればよく、幅や厚みは適宜変更可能である。また、肩紐３０の長さは、使用者が肩紐３０を肩にかけた状態で、織物１０の長手方向の一方の辺１２が、使用者のみぞおち付近に位置する長さであればよく、適宜変更可能である。

【００２６】

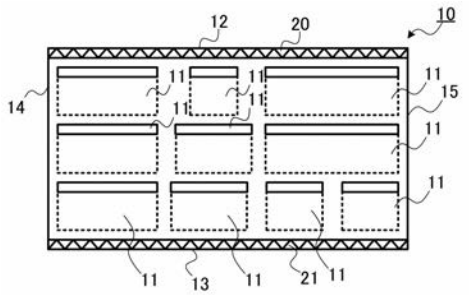
肩紐３０は、織物１０の長手方向の一方の辺１２の近傍、かつポケット１１が設けられた表面側ではなく、腹巻１の内側に縫い付けられている。なお、肩紐３０は、腹巻１の外側に縫い付けられていても良い。

【００２７】

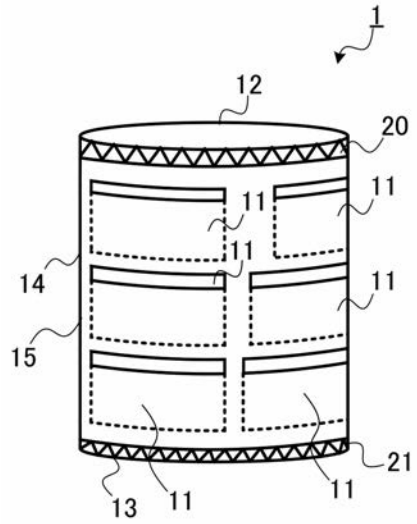
また、腹巻１は、上述した織物１０の長手方向の他方の辺１３が、使用者のみぞおち付近に位置する場合、長手方向の他方の辺１３の近傍、かつポケット１１が設けられた表面側ではなく、腹巻１の内側に縫い付けられていれば良い。また、肩紐３０は、腹巻１の外側に縫い付けられていても良い。

【００２８】
　また、腹巻１は、上述した織物１０の短手方向の両端部である長手方向の一方の辺１２と他方の辺１３とが縫い合わせれて形成されている場合、上述した使用者のみぞおち付近に位置する短手方向の一方の辺１４又は他方の辺１５の近傍、かつポケット１１が設けられた表面側ではなく、腹巻１の内側に縫い付けられていれば良い。また、肩紐３０は、腹巻１の外側に縫い付けられていても良い。
【００２９】
　このようにすることにより、腹巻１は、使用者が着用した際、例えば、複数の小冊子や貴重品等をポケットに収納し、収納した物品が重くなる場合であっても、肩紐３０により、腹巻１を肩にかけて使用することになるため、着用時に、腹巻１が、ずり落ちたりすることを防止することが可能となる。
【００３０】
　以上、本考案の実施形態について説明したが、本考案は上述したこれらの実施形態に限るものではない。また、本考案の実施形態に記載された効果は、本考案から生じる最も好適な効果を列挙したに過ぎず、本考案による効果は、本考案の実施形態に記載されたものに限定されるものではない。
【００３１】
　１　腹巻、１０　織物、３０　肩紐

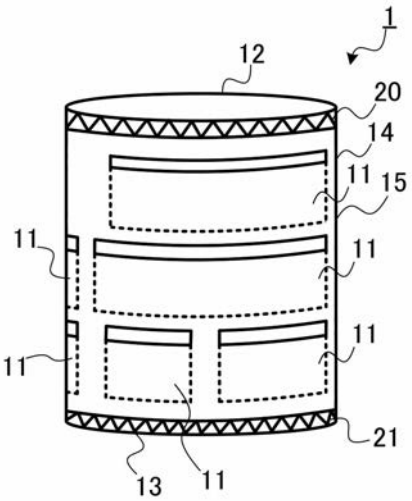
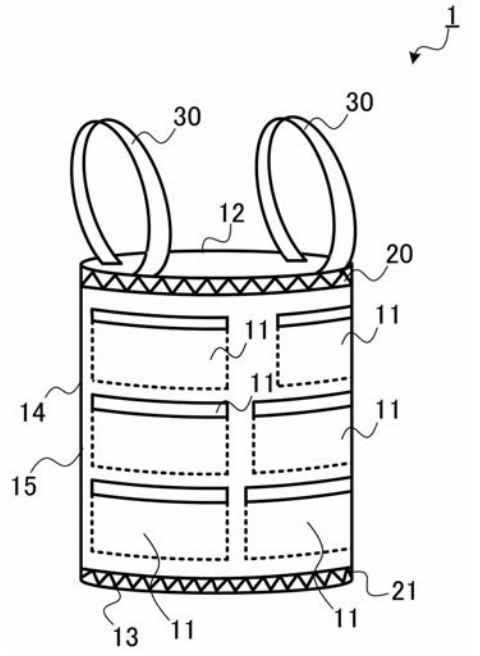
【図１】



【図２】



【図３】



【図４】